

令和7年度 第3回川崎市宮前市民館専門部会会議録（要旨）

日 時 令和7年12月9日（金） 14:00～16:00

会 場 宮前市民館 4階 第4会議室

出席者 部会長 川西 和子 調査モデレーター・分析・各種司会
副部会長 山本 太三雄 菅生分館利用者懇談会
委 員 後藤 香織 川崎市立宮前平小学校 校長
渡辺 美代子 宮前区文化協会 会計
高久 實 宮前区全町内・自治会連合会 理事
檜崎 光雄 市民委員
白武 初江 宮前第6地区民生委員児童委員協議会 会長
宮下 大志 宮前区PTA協議会 副会長

事務局 宮前市民館 石川館長・下間係長・徳原係長・篠原主任・加古主任・今井職員
田中職員
菅生分館 佐藤分館長

会議の成立 委員8名中8名出席のため、成立

会議の公開・傍聴人 なし

次 第

1 宮前市民館長あいさつ

2 議事

(1) 報告事項

・宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について

(2) 協議事項

・研究課題について

(3) その他

ア 令和8年度 宮前市民館・菅生分館 市民自主学級・市民自主企画事業の提案
会と選考について

イ その他

配付資料

資料1 令和7年度 宮前市民館 社会教育振興事業実施状況

資料2 令和7年度 宮前市民館菅生分館 社会教育振興事業実施状況

資料3 令和8年度 宮前市民館市民自主学級・市民自主企画事業募集実施概要（一式）

(参考)

- 宮前市民館だより 第264号(12月1日発行)
- 菅生分館だより 第194号(11月1日発行)
- 宮前市民館事業チラシ
- 「みやまえ子育てフェスタ」 課題別連携事業
- 「無意識の思い込みとさよならしよう」 平和人権・男女平等推進学習
- 「Let's ハンドメイド&館内装飾～宮前市民館ってどんなところ? Ver3 大人編」 市民エンパワーメント研修
- 「スマホ相談会 11月」 現代的課題学習事業
- 「スマホ相談会 12月」
- 「スマホ相談会 1月」
- 菅生分館事業チラシ
- 「はじめての絵本とのであい」 市民自主学級
- 「男の簡単料理 ひとりご飯、みんなでご飯、みんなで元気!」高齢者セミナー
- 生涯学習情報誌「ステージアップ」 Vol.255

1 宮前市民館長あいさつ

2 議事

(1) 報告事項

宮前市民館・菅生分館の社会教育振興事業について

宮前市民館の社会教育振興事業について、資料1に基づき、徳原係長から説明を行った。

菅生分館の社会教育振興事業の実施状況について、資料2に基づき、佐藤分館長から説明を行った

(質疑応答)

榎崎委員

宮前市民館の識字学習活動に参加している人の国の内訳は。

徳原係長

今のところアジア圏の人が多。また年末から年度末にかけて受講者が外国人の配偶者を連れてくることが多い。

川西議長

どれくらいの期間で識字学習活動を卒業するのか。

徳原係長

長い人は長い、たいてい1、2年である。コロナ前に比べて長くいる人が減ってきているのが印象としてある。

榎崎委員

菅生分館の子育て支援啓発事業で行ったプラネタリウムはどのようなものだったのか。

佐藤分館長

かわさき宙と緑の科学館からプラネタリウムの投影機を持ってきてもらい、和室を真っ暗にして投影した。学芸員の解説と一緒に、歌や演奏が入り参加者にとっても楽しんでいただけたと思う。

檜崎委員

素晴らしいことだ。提案なのだが、開催した事業の様子を写真や映像で簡単に紹介してもらえればわかりやすいのではないか。

高久委員

私もそう思う。スクリーン等で写してくればいいと思う。

川西部会長

講座の映像を一般の人に見せるのは、講師や受講者の許可が必要になってくると思うのだが、こういった会議の中の場合であればいいのだろうか。

佐藤分館長

こうした会議の中だけであればいいが、対外的に出してしまうと参加者に許可を取らなければならない。

川西分館長

今後の検討事項ということだろう。

高久委員

菅生分館で開催された「0歳から親子で楽しめるコンサート」は参加人数が多く盛況だったようだが、どのような雰囲気だったのか。

佐藤分館長

9月28日（日）に1時間ずつ2回開催した。ピアノ、トランペット、歌やコーラスで童謡など子供向けの歌と一緒に歌った。最前列にマットを敷いて小さい子はそこで座れるようにし、その後ろは椅子を配置し見られるようにした。親子連れを対象にしていたが一般の人も参加され非常に好評であった。地元の高校生がボランティアでアナウンスや会場整理などを手伝ってくれ、自治会や学校などの協力を得て地域が一体となって成功した事業だと思う。

川西部会長

参加者が多かったのは、何か広報に工夫があったからなのか。

佐藤分館長

なぜこんなに人が来てくれたのか理由は分析中である。広報については、自治会でチラシを回覧してもらったりホームページに掲載した。0歳から行けるコンサートということで誰もが気兼ねなく参加できるということがよかったのだろう。

高久委員

すばらしい事業だと思う。次回は中学校の体育館を借り吹奏楽部も含めて開催するなどしたらどうか。地域と繋がることは大事なことである。今回うまくいったことをぜひ次回にも生かして欲しい。

檜崎委員

ボランティアをしてくれたのはどこの高校の生徒なのか。

佐藤分館長

県立生田高等学校生徒会の生徒である。

川西部会長

374人もコンサートに来た人がいるということは確実にニーズがあるということでも素晴らしいことだと思う。

菅生分館のファッションショーはどうだったのか。

山本副部会長

20人の女性が着物のリメイク講座で作った服を見せるファッションショーがメインで、男性は4人サプライズで講師が作った服を着て最後に登場した。女性も男性も最初は嫌がったり恥ずかしがったりしていたが、最後には皆楽しかったと言っていた。

佐藤分館長

今後は講座を引き継いでグループ化して活動することになったので、とてもよかった。

川西部会長

最後に発表をするということが大事である。学習したことを発表することによって見てくれる人が広がるし、自分達の完成度も上がる。発表の場をいかに確保するかだ。着物はどこの家庭にも数枚はあるので、着物のリメイクは時代のニーズにあった企画だと思う。

佐藤分館長

SDGsの意識を持ちつつ、発表に繋げたのがとてもよかった。

川西部会長

「男の簡単料理」がこれから開催されるが、男性が参加しやすい様に1人分作ることや口の健康のことなど目配りが効いている内容で感心した。こういう講座はどうやって発想するのか。

佐藤分館長

担当者が日頃から色々な意識を持ち情報を集めている。昨今は、一人住まいの方が増えていることも念頭において講座を考えていった。

川西部会長

菅生分館は伝統的に企画力がある。今後も頑張ってもらいたい。

どんな人が識字学級のボランティアに参加しているのか。

徳原係長

入門研修は家族で海外に行っていた人、日本語学校の先生など様々な方が申し込んでいる。川崎市の日本語学級は先生と生徒という立場ではなく、ボランティアと学習者がともに学んでいくこと、日常生活に即した内容に直結した学習になっていることが特徴である。25人程の申込があつて10回程の研修を受けている。ただ、講座終了後にボランティアとして登録して活動してくれる人は10人程度になってしまう。日本語学校と違ってくと、内容の相違が発生してしまう。今回は夜間クラスの募集なので男性が多い。また今回初めて高校生の女の子が申し込んでくれた。

川西部会長

ボランティア研修に申し込むのは、外国の人と交流したいことが主な理由なのか。

徳原係長

主な理由は外国の人との交流だと思う。あとは自分自身が外国にいた頃に苦労した経験から、日本に来た外国人の手助けをしたいと思う人もいる。

川西部会長

ボランティアにこれだけの人数が応募してくるとは宮前区はすごい地域だなと感心する。他の区でも応募は多いのか。

徳原係長

北部の区の方がボランティアの希望が多いと聞いている。宮前区のボランティアは日本語学級が終わった後に個人的に相談に乗ったり、役所の手続きに付き添ったりと親身になって頑張っている活動し、いい関係性が構築できている事業である。

川西部会長

今、市民館のサポーターを増やそうと思って活動をしている。そのこととは少し切り口が違うが、社会教育事業のボランティアとして市民館に足を運んでくれる人がどれだけいるかということが市民館の価値を位置づけていると思う。こういうことが積み重なっていくと強固なサポーターと言えるのではないか。素晴らしいことである。

檜崎委員

日本もどんどん外国人を受け入れていかないといけない状況である。宮前区は市民感覚でボランティアをやっていることに価値がある。

学校には外国人の生徒はいるのか。

後藤委員

外国にルーツがある生徒は宮前平小学校では数人だが、他の小学校では一定数いると思う。

渡辺委員

自分はフェイスブックをやっているのだが、文化協会で生け花を行った様子

を顔を隠して投稿すると、応援のメッセージが届く。インターネット上に載せるということは、記録になり多くの人に見てもらえるので、どんどん使っていた方がいいのではないか。

菅生分館の着物リメイク講座は宮前市民館でもやって欲しいという声を聞いた。また、大人向けの館内装飾は仲間でも興味を持っている人がいる。講座の参加人数をもっと増やしてもらえれば嬉しい。

白武委員

前に「宮前市民館ってどんなところ？」という講座に申込をしたかったが、チラシを見ても申込方法がわからなかったという話を聞いた。あっさりしたチラシにした方がいい場合もあるのではないだろうか。

徳原係長

今回の大人向け館内装飾のチラシは2色刷りである。カラーのものはポスターとして館内に貼ってある。春らしいやわらかいイメージで作品を作っていく予定である。

川西部会長

トイレットペーパーの芯やペットボトルに貼ってあるセロファン等のこの講座で使う材料は集まったのか。

徳原係長

かなり集まってきている。

宮下委員

菅生分館が向丘出張所とオンラインでつないで防災の話を行うのは素晴らしいことだと思った。アリーノなど他の場所と開催するような展開はあるのか。

佐藤分館長

今のところは向丘出張所が近いので連携をしているが、今後の状況次第で宮前市民館やアリーノとの連携も考えていきたい。

石川館長

向丘出張所は、デジタル技術の活用を力を入れているので、その一環として宮前市民館や菅生分館と連携している。

宮下委員

全体的に中高生や大学生、若い社会人が対象となる企画が少ないと思うので、宮前市民館や菅生分館に来てもらえるような企画が増えるといいのではないか。

(2) 協議事項

研究課題について

ワーキングでの検討内容を川西部会長から説明した。館内装飾のグループ活動と成果、今後の活動予定について徳原係長から説明した。

- ・新しい人に市民館を知ってもらうための方法の一つとして、館内装飾をして市民館内を明るくするために、青少年教室事業「Let's ハンドメイド&館内装飾」を企画し開催した。参加者は中学生から大学生の4～5人で夏休み子どもあそびランドに向けて館内装飾を行った。コロナ禍で配布できなかった市民館だよりを使った市民館ファンや水色の廊下を水面に見立て水族館にする装飾を行った。
- ・青少年教室の参加者は、夏休み子どもあそびランド終了後も月1回集まり季節ごとに変化させた装飾を続けていこうと「めんだこ」という名のグループを作って活動をしている。
- ・市民館ファンの作り方を教えて欲しいという問い合わせが数件あった。
- ・来館した幼児の目線にも装飾があるので、その装飾を楽しんで見ながら別の階に行く様子が見られた。
- ・年明けから大人を対象とした館内装飾の講座を行う。
- ・市民館内で講座や装飾を行うだけではなく、外へ出てワークショップを開催できるような人材を育成していければいいと考えている。
- ・市民館ファンの作成方法は宮前市民館のホームページに掲載する予定。
- ・この館内装飾は大きな柱になるのではないだろうか。
- ・館内装飾を作品作成の発表の場にできないだろうか。
- ・町内会やいこいの家、学校などでも出前講座が開催できるのではないか。
- ・市民館装飾ロードマップを作成した方がいいという意見をもとに、ロードマップが作成された。

(質疑応答)

宮下委員

ロードマップは皆が共通認識を持つために作成するものなので、どんどん変えていくことができるものである。

山本副部長

ロードマップの目的地はどういったものになるのか。なかなかイメージが浮かばない。

徳原係長

1月以降に大人版の館内装飾の講座が終了した後、どれくらいの人が残って活動してくれるのかによって目的地が見えてくるのではないか。

川西部会長

館内装飾は1つの小さな目的として行動を起こしているのだが、定期的にあるグループが一般市民と一緒に活動していく姿は、市民館とは利用する市民が共同で参画して運営していくものだという姿を現していると思う。利用者が使っていくうちに、不便なことを変えたいことに自分達の参集していく、これこそが本当のサポーターになりうるため、館内装飾はそういう意味では

試金石になると思う。これが定着し、市民館の有り様とは市民が参画して変えていくものだという認識が市民の生活に入ってくれば、市民館は本当に自分達のものと言えらると思う。ぜひ、館内装飾を柱にして育てていきたいと考えている。

山本副部長

目的地を「みんなの市民館」としたらどうか。

檜崎委員

いつまでにサポーターの人数を何人増やすという数値を出すことも目的地のひとつではないだろうか。そのことと実際に市民館を明るくすること、その2つの目的のために活動しているということではないか。

宮下委員

館内装飾は起爆剤の1つであって、作り続けること飾り続けること自体が目的ではない。市民館に人を呼び込むため、市民館を明るくするためには、館内装飾が続いている間に次の新しい手段を作って、みんなの市民館という文化を醸成していくことが1つだろう。次へ次へと内容を考えていくためにはみんなとの対話が必要である。

川西部会長

こういう市民館の市民との関わり方と学校の教育的側面からの視点とリンクすることはあるか

後藤委員

市民館を借りて発表等をする関わりはある。市民館に来る人が学校に来て講師をする、地域のサポーターとして関わるといったことは考えられるが、実際にはお願いするのは学区内の人が多いので、市民館に来る人は子ども達にとって近い存在とは言えない。

川西部会長

様々な人がいる中に子ども達が混じって一緒に折り紙などをすることはとても教育的意味があると思う。子ども達がどんどん入っていけるような流れができるといい。

宮下委員

学校は昔遊びを町内会の老人会に依頼し地域と繋がりを持っている。学校としては学区内の近い人がお願いしやすいということはよく理解できる。

高久委員

いこいの家や子ども文化センターで高齢者や子供たちそれぞれが作ったものを市民館内で展示会を開催すればみんなが見に来てくれるのではないか。

川西部会長

コミュニティカフェで、学校から昔遊びを教えて欲しいという要望が多く出ているという話を聞いた。会場を市民館が提供できるようにコーディネー

ターがいるといいのではないか。

檜崎委員

山本委員が言っていたように、目的地が「みんなの市民館」というのはとてもいいと思う。あとは定量的な目的の具体化目標を挙げていくといい。

渡辺委員

講師発案の市民館ファンを他の人がどこかの場所で教えるのは大丈夫なのか。

徳原係長

市民館ファンはホームページに掲載予定であり、それを基に作った人が地域で教えることは問題ないと思う。何か著作権などの問題があるのかは今後講師と具体的に確認していく。

川西部会長

このような流れで進んでいくことは専門部会全体としては賛同しているということでもいいだろうか。今後はこれをずっと続けて、宮下委員が言ったようにこれで終わらず、第2弾、第3弾と発展していきたいと思う。

(3) その他

ア 令和8年度 宮前市民館・菅生分館 市民自主学級・市民自主企画事業の提案会と選考について資料3に基づき、徳原係長から説明を行った。

イ その他

第4回専門部会及び宮前区市民自主学級・自主企画事業選考会は次のとおりとした。

令和8年2月15日（日） 午後1時から午後5時頃